

# プログラム

9月13日(土)

## 第1会場（大村記念ホール）

9:30～10:00 大会長講演

座長：出川 えりか（社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター）

PL いかに情報提供を行うか～虹色に輝く未来へ～  
椎 崇（北里大学病院 薬剤部）

10:40～11:40 教育講演1

座長：椎 崇（北里大学病院 薬剤部）

EL1 統合失調症の薬物治療 ガイドラインと実臨床の乖離 (evidence-practice gap)  
稻田 健（北里大学医学部 精神科学）

14:40～15:40 教育講演2

座長：黒沢 雅広（昭和医科大学薬学部 病院薬剤学講座/昭和医科大学鳥山病院 薬局）

EL2 向精神薬の薬理・相互作用  
古郡 規雄（獨協医科大学）

## 第2会場（1号館 5F 1501）

10:10～11:40 シンポジウム1

座長：北村 佳久（就実大学薬学部 薬物治療学）  
北川 航平（地方独立行政法人岡山県精神科医療センター 臨床研究部）

### クロザピンの副作用、みんなどうしてる? －ラボとベッドサイド、両方から考える副作用対策－

SY1-1 クロザピンによる血液毒性の発現機序を考える：基礎研究からのアプローチ  
野田 幸裕（名城大学薬学部 病態解析学Ⅰ）

SY1-2 臨床疑問からはじまる臨床薬剤師の基礎研究～クロザピン誘発性流涎症～  
峠 雄太（愛媛大学医学部附属病院 薬剤部）

SY1-3 クロザピン治療に伴う摂食量低下への臨床的対応  
長浜 恭史（公益財団法人 西熊谷病院）

SY1-4 クロザピンの副作用対策を考える 一臨床立場から一  
山本 恒平（島根県立こころの医療センター 薬剤科）

12:00～13:00 ランチョンセミナー1

(共催：Meiji Seika ファルマ株式会社)

座長：内山 真（医療法人財団厚生協会 東京足立病院）

LS1 睡眠薬の適正使用と出口戦略～入口から始める出口戦略の普及と実装に向けて～  
高江洲 義和（琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座）

14:40～16:10 シンポジウム3

座長：坪内 清貴（金沢大学附属病院 薬剤部）

祖川 倫太郎（佐賀大学医学部附属病院）

### 精神科リエゾンで薬剤師が"らしさ"を發揮するためのカギとは

SY3-1 薬剤師による睡眠薬の適正使用への貢献とせん妄へのアプローチ  
重面 雄紀（京都大学医学部附属病院 薬剤部）

SY3-2 精神科医のいない中小身体科病院で精神科薬剤師にできること  
鶴崎 道則（医療法人横浜博萌会西横浜国際総合病院）

SY3-3 精神科病院での薬剤師の活動から考える多職種連携とタスクシフト  
吉川 萌香（医療法人横田会向陽台病院 診療部薬剤科）

## 第3会場（2号館 3F 2301）

10:10～11:40 シンポジウム2

座長：大久保 由衣（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 薬剤科）  
松村 俊希（埼玉医科大学病院 薬剤部）

### 特定背景を抱える患者への精神科薬物療法 —高齢・肝障害・妊婦・摂食障害にどう挑むか—

#### SY2-1 高齢者精神科診療における“効かせすぎない”薬物療法

竹内 啓善（慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室）

#### SY2-2 肝機能障害を有する患者における精神科薬物療法マネジメント

築地 茉莉子（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）

#### SY2-3 周産期の精神科薬物療法における情報評価と Shared Decision Making

小澤 秀介（信州大学医学部附属病院 薬剤部）

#### SY2-4 摂食障害に対する薬剤師のかかわり

～精神・身体・薬学の交差点に立つ薬剤師の実践～

山本 ゆりえ（国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター 薬剤部）

12:00～13:00 ランチョンセミナー2

(共催：田辺三菱製薬株式会社)

座長：椎 崇（北里大学病院 薬剤部）

#### LS2 維持期を見据えた統合失調症治療を考える

-抗精神病薬の副作用や遅発性ジスキネジアを中心に-

坪井 貴嗣（杏林大学医学部 精神神経科学教室）

座長：葛葉 里奈（札幌花園病院）

中村 友喜（三重県立こころの医療センター）

別所 千枝（JA広島厚生連尾道総合病院 薬剤科）

オーガナイザー：三輪 高市（鈴鹿医療科学大学）

桑原 秀徳（瀬野川病院）

## Bar Provaで語り合おう 統合失調症の処方提案とフォローアップ ～教授と一緒に聞き耳を～

### SY4-1 最近のベーシックな統合失調症薬物治療とは： 非定型抗精神病薬を中心とした薬剤選択の考え方

江角 悟（神戸学院大学 薬学部）

### SY4-2 統合失調症の薬物治療におけるClozapineと定型抗精神病薬の位置づけ ～非定型抗精神病薬からの、次の一手を考える～

石田 雄介（宮城県立精神医療センター）

### SY4-3 精神疾患患者に対する心理教育 ～チーム医療における心理教育の可能性～

木藤 弘子（医療法人恵愛会福間病院）

## ワークショップ会場（1号館 4F 1401・1402）

9:40～11:40 ワークショップ1

座長：吉尾 隆（公益財団法人住吉偕成会住吉病院）  
三輪 高市（鈴鹿医療科学大学）

### WS1 PCP研究会記念事業 症例検討「より良い薬物治療を考えよう—統合失調症—」

企画運営者：柴田 木綿（八幡厚生病院 診療技術課 薬剤科）

演者：滝澤 理貴（社会医療法人函館博栄会函館渡辺病院 薬剤部）

ファシリテーター：加藤 剛（医療法人社団幸悠会 薬剤部）

佐藤 康一（桜ヶ丘記念病院 薬剤部）

志田 雅彦（ときわ病院 薬局）

谷藤 弘淳（こだまホスピタル 薬剤部）

中川 将人（加賀こころの病院 医療技術部）

柴田 木綿（八幡厚生病院 診療技術課 薬剤科）

14:40～16:40 ワークショップ2 抗精神病薬の減薬・減量の実践的なワークショップ

座長：野田 幸裕（名城大学薬学部 病態解析学Ⅰ）

### WS2 抗精神病薬の減薬・減量の実践的なワークショップ

講師・ファシリテーター：吉見 陽（名城大学薬学部 病態解析学Ⅰ）

肥田 裕丈（名古屋大学医学部附属病院 薬剤部）

堀田 彰悟（名古屋大学医学部附属病院・名城大学大学院薬学研究科）

ファシリテーター：内田 美月（名古屋大学医学部附属病院・名城大学薬学部）

鎌田 朋見（名古屋大学医学部附属病院）

加納 正暉（名城大学大学院薬学研究科）

加藤 朱莉（名古屋大学医学部附属病院・名城大学薬学部）

井指 孝一（名城大学薬学部）

補助：金澤 和桜子（名城大学薬学部）

尾崎 真優（名城大学薬学部）

## 展示・ポスター会場（体育館）

13:20～14:20 一般演題

ディスカッション・コアタイム 演題番号奇数の方 13:20～13:50  
演題番号偶数の方 13:50～14:20

### 一般演題1 アルコール・薬物依存

- P-01 アルコール使用症患者における精神運動機能試験を用いた認知機能評価の開発  
○富山 桜子（名城大学薬学部・病院薬学研究室）
- P-02 アルコールの飲酒におけるGRIK1 遺伝子多型とトピラマートの治療効果の関連：システムティックレビュー  
○小武 和正（公益財団法人慈圭会 慈圭病院 薬局）
- P-03 薬剤過量摂取経験を有する若年患者における心理教育シートの利用に関する後方視的調査  
○木村 郁（東京都立松沢病院薬剤科）
- P-04 単科精神科病院における若年外来患者の市販薬不適切使用に関する実態調査  
○久保 慎司（小鳥居諫早病院）

### 一般演題2 リエゾン・身体合併症・心身症

- P-05 当院精神科リエゾンチームの現状と今後の課題  
○田口 弘美（総合病院 聖隸三方原病院薬剤部）
- P-06 せん妄発症と日本版抗コリン薬リスクスケール（JARS）との関連および予測能の検討  
○古賀 亮次（独立行政法人国立病院機構 別府医療センター 薬剤部）
- P-07 精神科病院に入院した乳がん患者との関わり～鎮痛剤なしで疼痛コントロールできた1症例～  
○加藤 剛（逸見病院、鈴木慈光病院）
- P-08 せん妄に対する抗精神病薬の適応外使用における薬剤師の審査支援への取り組み  
○佐々木 典子（三重大学医学部附属病院 医療安全管理部）

### 一般演題3 統合失調症

- P-09 統合失調症入院患者の転倒転落報告と向精神薬について  
○高橋 満里（平松記念病院）
- P-10 統合失調症患者とその家族を対象とした抗精神病薬の剤形別使用率および認知度に関するアンケート調査  
○徳谷 晃（兵庫医科大学病院薬剤部）
- P-11 15歳の患者へのクロザピン導入に薬剤師が介入した一例  
○青木 涼（大阪精神医療センター）
- P-12 統合失調症における持効性注射剤（リスペリドン、アリピプラゾール、パリペリドン1か月製剤、パリペリドン3か月製剤）を使用した患者の継続期間の比較検討  
○渡邊 温太（名城大学薬学部・病院薬学研究室）
- P-13 統合失調症患者における就労状況および薬物治療による認知機能の比較検討  
○清水 侑真（名城大学大学院 薬学研究科 病院薬学研究室）
- P-14 統合失調症患者における精神運動機能試験を用いた認知機能評価の有用性について  
○神谷 美名（名城大学薬学部 病院薬学研究室）
- P-15 治療抵抗性統合失調症に対する高用量オランザピン減量の試みとその影響  
○植松 拓也（川崎こころ病院 薬剤科）
- P-16 クロザピン由来の血球減少に与える気分安定薬の影響  
○佐藤 雅也（総合心療センターひなが 診療技術部 薬剤課、鈴鹿医療科学大学 薬学部）
- P-17 SGA-持続性抗精神病注射薬剤3群間比較からの考察  
○山田 雅彦（医療法人社団更生会 こころホスピタル草津）
- P-18 統合失調症薬物療法ガイドライン一致率と罹病期間の関連分析：EGUIDEを踏まえて  
○上戸 千尋（社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院 薬剤部）
- P-19 クロザピン誘発性肝酵素上昇のリスク因子の検討  
○石井 香織（国立精神・神経医療研究センター病院薬剤部）

### 一般演題4 抗精神病薬

- P-20 Evaluation and Analysis of Long-Acting Injection Invega Hafyera Usage in Hospitalized Patients.  
○林 育弘（高雄榮民總醫院臺南分院）
- P-21 クロザピン使用患者のQOLおよびDAI-10の経時的变化  
○飛田 俊介（横浜日野病院薬剤部）

- P-22 統合失調症患者における抗精神病薬の頓服薬使用頻度と多剤併用療法との関係性  
○下山 航平（東邦大学医療センター大森病院薬剤部）
- P-23 うつ病患者における非定型抗精神病薬Brexpiprazoleの追加投与による有効性について  
○小林 千恵（名城大学薬学部・病院薬学研究室）
- P-24 双極性障害に対する抗精神病薬の顕在化しにくい有害事象の実態とその原因に関する調査  
○堤 里菜（名城大学薬学部・病院薬学研究室）
- P-25 クロザピンの処方実態調査  
○池田 裕（国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 薬剤部）
- P-26 パリペリドン12週間製剤の中止に関するケースシリーズ研究  
○細川 琴実（昭和医科大学薬学部病院薬剤学講座、昭和医科大学烏山病院）
- P-27 ブロナンセリン貼付剤の夜間限定使用による過鎮静回避と精神症状の改善が得られた1例  
○石塚 雅人（聖隸三方原病院薬剤部）
- P-28 オランザピンによる薬剤熱を発症後、ルラシドンに切り替えて治療できた双極性障害患者の一例  
○渡部 和幸（医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部）
- P-29 クロザピンによる痙攣発作に対するTDM提案を含めた介入により自宅退院に繋がった治療抵抗性統合失調症患者の一例  
○泉 実公子（金沢大学附属病院薬剤部）
- P-30 持効性注射剤投与スケジュール把握の取り組みとタスクシフト  
○高松 侑可（積信会長谷川病院）
- P-31 当院におけるクロザピン中止理由と発熱後の治療継続に関する後ろ向き調査  
○高橋 裕（群馬県立精神医療センター薬剤部）
- P-32 ブレクスピプラゾールにより性的逸脱行動を呈した混合型認知症の一例  
○桑原 秀徳（医療法人せのがわ瀬野川病院 診療支援部、医療法人せのがわ瀬野川病院 薬剤課）

## 一般演題5 抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬

- P-33 透析導入患者の抑うつ症状に対してミルタザピン少量投与が奏功した一例  
○工藤 裕太（能代厚生病療センター）
- P-34 精神科急性期治療病棟を有する精神科病院における最近の睡眠薬動向と転倒・転落への影響  
○伊東 晃尚（久喜すずのき病院薬剤科）

- P-35 睡眠薬フォーミュラリ導入による効果—ベンゾジアゼピン系睡眠薬の削減およびクリニカルパス・セット処方の適正化—  
○青木 竣哉（成田赤十字病院薬剤部）
- P-36 入院中新たに開始された睡眠薬の服用と転倒への影響  
○鎌田 朋見（名古屋大学医学部附属病院薬剤部）
- P-37 薬局における疾患別対応マニュアル～患者支援の更なる充実に向けて～【精神疾患（睡眠障害）】の作成  
○成井 繁（グッドファーマシー株式会社 湘南あおぞら薬局 藤沢店、  
「薬局における疾患別対人業務ガイドライン作成のための調査業務」精神疾患に関する作業部会）
- P-38 （一社）所沢市薬剤師会と所沢市の連携によるによる服薬適正化事業～重複服薬の状況を中心～  
○加藤 剛（所沢慈光病院、一般社団法人 所沢市薬剤師会、  
所沢市健康増進連携推進協議会）

## 一般演題 6 疫学・調査

- P-39 抗精神病薬の多診療科的使用の変遷：宮崎大学医学部附属病院における解析  
○保田 和哉（宮崎大学医学部附属病院 薬剤部）
- P-40 急性期病棟における薬剤師による疾患教育の考察  
○高井 英里（兵庫県立 ひょうごこころの医療センター 薬剤部）
- P-41 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2024年）その1～全国51施設の入院患者の処方状況について～  
○吉見 陽（名城大学薬学部・大学院薬学研究科病態解析学Ⅰ、  
日本精神薬学会学術調査・研究小委員会）
- P-42 統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査（2024年）その2～全国36施設の外来患者の処方状況について～  
○祖川 優太郎（佐賀大学医学部附属病院 薬剤部、日本精神薬学会学術調査・研究小委員会）

## 一般演題 7 臨床薬学・服薬指導

- P-43 実例に学ぶ意識障害リスクへの服薬指導と薬歴記録の重要性  
○名倉 縱子（スター薬局 堀江店）
- P-44 薬学実務実習における精神科実習の実施について 第2報  
○近藤 浩樹（ファーマライズ薬局 日永店）
- P-45 精神科医と共同作成したプロトコールに基づく  
新規抗うつ薬における服薬後フォローアップの有用性評価  
○清川 真帆（はやい薬局）

- P-46 薬局薬剤師による精神科領域プログラムが実習生に与える影響  
○神作 綾乃（東京薬科大学附属薬局）
- P-47 当院のクロザリル治療における薬剤師の役割～多職種と協働したクロザリル委員会での活動～  
○和田 智仁（社会医療法人居仁会総合心療センターひなが、同 クロザリル委員会）
- P-48 病院薬剤師による外来患者の抗精神病薬服用に関するアセスメントとその効果  
○内山 道子（一般財団法人愛成会弘前愛成会病院）
- P-49 薬剤師による頓服モニタリングが精神科病棟の処方動向に与える影響  
○清水 善仁（金沢医科大学病院 薬剤部）
- P-50 精神科病院薬剤師への訪問薬剤管理指導依頼と患者背景  
～どのような患者に訪問が必要か～  
○山本 和幸（長野県立こころの医療センター駒ヶ根 薬剤部）
- P-51 薬を拒む患者さんへの関わりのなかで薬剤師に必要な視点～医師との視点の違いについて～  
○須田 修輔（南飯能病院薬剤部）
- P-52 大学病院精神科担当薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導により処方薬減少および頓服使用回数の減少に結びついた一例  
○堀井 里奈（藤田医科大学病院薬剤部、藤田医科大学医学部 薬物治療情報学）
- P-53 公認心理師の資格を有する薬剤師による服薬指導を機に重症うつ病の診断が再考された一例  
○嶋村 悠実（岩手医科大学附属病院薬剤部）
- P-54 ファーマライズ薬局日永店におけるクロザピン処方の応需状況とかかりつけ薬剤師の関わりについて  
○上條 千恵子（ファーマライズ薬局日永店）

## 一般演題 8 その他

- P-55 幼若期社会的敗北ストレス負荷マウスの社会性行動障害における $\alpha$ 7ニコチン性アセチルコリン受容体を介する細胞内情報伝達系の関与  
○尾崎 真優（名城大学薬学部・大学院薬学研究科 病態解析学 I）
- P-56 睡眠薬服用患者における不眠の重症度と睡眠衛生に関する認知度の関連性調査～効果的な睡眠衛生指導方法の検討～  
○小林 聖子（山形県病院薬剤師会 認定・専門部会（精神科領域）、千歳篠田病院 薬局）
- P-57 薬局薬剤師から情報提供することでMPHからLDXへの置換に至った症例の治療効果の変化について  
○武内 美喜子（株式会社 メディカルエイド 鳩ヶ谷のぞみ調剤薬局）

- P-58 LPS誘発性肺炎症モデルマウスに対する補中益気湯の抗不安効果および肺障害改善効果  
○植田 哲平（就実大学大学院医療薬学研究科薬物治療学）
- P-59 薬動力学的特性の異なる抗がん剤の投与がマウスの社会敗北ストレスに対する感受性に与える影響に関する比較検討  
○茂木 啓佑（京都薬科大学衛生化学分野）
- P-60 フェンシクリジン誘発統合失調症様モデルマウスにおける脳内クロザピン反応性遺伝子の探索的研究  
○金澤 和桜子（名城大学薬学部病態解析学Ⅰ）
- P-61 Enhancing Drug Safety: Insights via Active Reporting & Patient Education  
○林 育弘（高雄榮民總醫院臺南分院薬剤科）
- P-62 精神科急性期での抗コリン薬使用の実態調査及び抗コリン薬リスクスケール活用の検討  
○岩田 彩生乃（大内病院薬剤部）
- P-63 LAI周知ポスターが有用であった症例  
○村田 峻佑（特定医療法人楠会楠メンタルホスピタル 薬局）
- P-64 機械学習手法を用いた術後せん妄発症予測モデルの開発  
○尾崎 太祐（名城大学薬学部・病院薬学研究室）
- P-65 皮膚疾患患者における抗ヒスタミン薬服用による精神運動機能試験を用いた インペアード・パフォーマンスの評価  
○佐光 敬太（名城大学薬学部 病院薬学研究室）
- P-66 ビペリデン塩酸塩の供給制限が入院患者の錐体外路症状に与えた影響  
○井上 純孝（函館渡辺病院 薬剤部）
- P-67 精神疾患の薬物治療におけるかかりつけ薬剤師の有用性～症例提示及び考察～  
○明樂 貴文（株式会社AINファーマシーズ アイン薬局松山記念病院店）
- P-68 精神科入院患者に対する電話と薬剤管理サマリーを用いた薬薬連携の現状評価  
○小林 弘典（金沢医科大学病院薬剤部）
- P-69 薬剤師および薬学生のコミュニケーショントレーニングにおける現状とニーズの実態調査  
○細川 智成（NPO法人アヘッドマップ、公益財団法人慈圭会 慈圭病院 薬局）